

楽器のススメ:第一回 "手笛"

【公開日】:04/7/17(05/6/30更新)【著者】:OIDUS・DAVID・DEKURON

【第一回】:手笛に浸る!

皆さん、こんにちは。”楽器のススメ”の第一回です！

このコーナーは、楽器を毎回紹介していくコーナーです。楽器のススメコーナーでは、楽器演奏の面白さを伝えます。楽器の吹き方なども紹介します。このページを見ていると、なんだか楽器が吹いてみたくなってくる、そんなページにしていきたいです。

第一回では、フルートを紹介したかったんですが、記事がとても長くなるので次回あたりにまわすことにしましょう。

さて、今回は特別編です。楽器はいりません。両手があれば笛が吹けちゃいます。”手笛”ともいいましょうか。びっくりでしょ！？音楽を奏でるのなら、大概是楽器が必要なのです。だがしかし、手だって立派に楽器になるのですよ。たとえば・・・

「幸せなら手をたたこう。チャッ・チャッ！」

”チャッ”がそうですね？ただ手をたたきだけですよね。簡単でしょう！しかも、あの音色(?)は手だけしか出せません。手も独特の楽器なんです。

それに”ユビパッチン”も、ポップなどで使われることがあります。あれも奏でる(?)楽器ですよねえ？

さて、そんないくつもの顔を持った手ですが、普段、手を笛として使う人はあまりいなのではないのでしょうか？というか皆さん、手が笛になるってご存知？”鳩笛”などと言うらしいです。手が笛になる、それはそれは神秘的な光景ですよ。

さてさて、ひとえに”笛”と言っても、さまざまな種類の笛があります。その多くは、穴が空いていて、それを指でふさぐ、という形式です。リコーダー・オカリナ・尺八・竜笛・フルート・・・いろいろあります。どこをふさぐかによって”音階”を出せます。

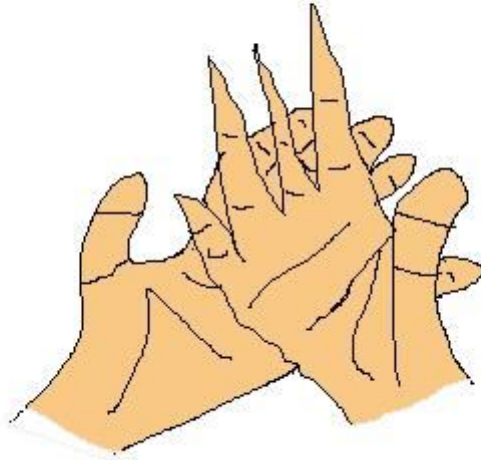
今回の手笛は、口をつける・・・つまり、リコーダーで言う空気を吹き込むための穴はあけていますが、それだけです。穴は1つだけ。だって両手を使って笛を作るんですからねえ。穴をふさごうにも指がたりません。

穴をふさぐから、空気の出る量が変わって、それぞれの音が出るわけで、音階を出すためには穴を作るしかありません。でも、両手を使うから穴を作ったらふさげません。どうしようか・・・それを、これから紹介していきましょう♪

まず、用意するものは・・・手！はい、おしまい。あっ、一応、手を洗っておいてくださいネ。口をつけて吹きますから。泥遊びの後とかはバッチイばい菌がついてますからねえ(笑)

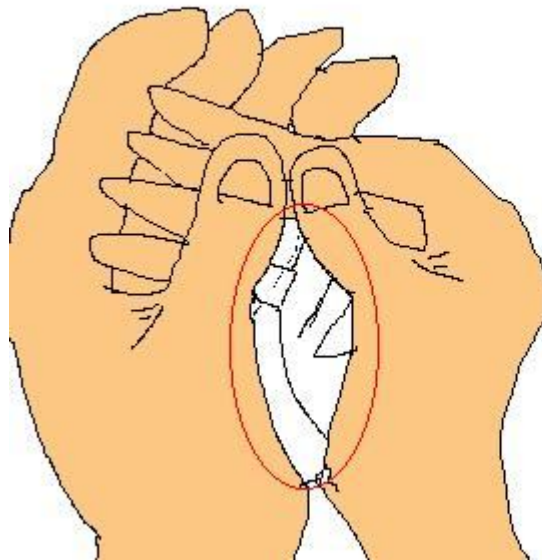
次に、両手の手相を上にして、まじまじと両手を見てください。生命線が見えますね。金運は・・・あまり振るわないようです。結婚線は・・・どうでも良いです。

さて、そのまま右手を、左手の上においてください。下図のように。



次に、そのまま2本の親指を真ん中に動かして、ごっつんこしてください。(幼稚な言い方すみません。大真面目に解説すると、文がたいそう長くなるので・・・)

そうすると、下図のようになります。このとき、光が中から漏れないように、真ん中だけ穴を開けてください。



ここまできたら、後は簡単。赤丸で囲った、上の図の色の無い部分に注目。図では大きく描きましたが、皆さんの手には幅2ミリくらいの小さい暗い部分が出来てますよね？真ん中以外に隙間がないよう、両手にぎゅっと力を入れてください。そして、この白い部分に唇を当てます。唇を当てる位置は、白い部分の一番したあたりです。

そうすると、下図の様になります。



汚い絵でごめんなさい……。口を風船を膨らますときのように思いっきり膨らませて、思い切り息を吹きかけてください。笛らしい音が聞こえたなあ……と思ったら、だいぶ成功です。もし、空気が漏れているような気がしたら、隙間無く手をぎゅっと締めてください。

さて、もう少し強く吹いてください。先ほどよりなんとなく笛の音のようなものが聞こえてきたでしょう？ 鳴らない方、後一步！ ガンバです。

もう、ためらいも無く息を吹きちゃってください。

「プー」

はい！ 出た人は成功。出なかったら、隙間をうめて、もっと口の角度を変えて何度も練習しましょう。結構コツがいります。

もし音が出たら、もうそれはそれは感動でしょう！？ 音が出たんですよ。絶対音感の人ぐらいいか分からないような、手をたたき音をドレミで当てるテストではありません。誰が聴いても笛とわかる音です。どれみふあそらしどです。

音が出たら、もう95パーセントOK。あとは、重ねている右手の先を上突き出したり、中にしまったり、親指でエッジをつけたりして吹くと、音程が変わります。変わりますね？

また、裏技として、両手の小指側に、少し隙間を空けると、無理やり音程を変えられます。

あとは、どこか果てまで行って、川など人がいないところで、練習した手笛を思いっきり吹いてみましょう。100人中100人が酸欠になると思います。めまいもします。くらくなります。だって、手で吹くのですからねえ。どうしても、管楽器のように隙間をぴたりと埋めることは難しい。音色も、ヒュンゴヒュンゴと空気が漏れて、あまりきれいではないかもしれませんが、独特の音色ですよ。ねえ？ 結構、響く音ですし。

土手なんかで曲を演奏したら、道行く人がびっくりするでしょう？ きっとあなたもMUSICIAN！ 興味のある方は是非トライ！ そしてCDを売りましょう(笑)！

さてさて・・・どうしてもならない人のために録音したものを載せておきます。

[音をいくつか紹介\(WMAファイル\)](#)

おしまい。

楽器のススメ:第二回 "リコーダー"
【公開日】:05/7/5 【著者】:OIDUS・DAVID・DEKURON

【第二回】:なつかしいかな、あのチャルメラの響き♪

皆さん、こんにちは。”楽器のススメ”の第二回です！

前は、いきなり手で笛の音を奏でるって言うんだから、皆さんもびっくりしてしまったでしょう？今回は、手を使わずにリコーダーを使って、楽しく演奏しましょう！

さてさて、リコーダーと言えば、皆さんご存知、あの”ピーポーパー”となる楽器です。この楽器ですが、小学校では必ず音楽の授業で習います。音楽の授業以外に楽器をあまり演奏しない方は、小さいリコーダーと大きいリコーダーしか、演奏したことが無いのではないのでしょうか？

小さいほうが”ソプラノ”、大きいほうが”アルト”というリコーダーです。他にも、音域(どの音からどの音までがなるか、音の出せる範囲のこと)の違いで”ソプラニーノ”、”バス”などがあります。

で、今回は皆さんが中学校で使ったであろう”アルト”を紹介します♪

さてさて、現在学校で使うようなリコーダーは”ABS”という素材で出来ていることがほとんどで、高価な木製のリコーダーなんていうのもあるんですが、僕自身、そのような高級品は手にしたことがありません。なので、皆さんのなじみの深いABS製のリコーダーの音色を聴いてみましょう。

音階・・・ソラシドレミファ#ソ

拡張子を”mp5”にしているので、治してください(スマセン……)。

腕前は置いといて(苦)・・・とりあえずト短調の音色がこれです。安っぽい音色ですが、小学校の頃はこの音色が大好きで(いえいえ・・・今も好きですけど)、音楽の教科書を全部制覇するのが楽しみでした♪アルトだと音域が低いので、あのチャルメラを吹くとあまり心地良い音にはなりません。ソプラノで吹くと、本物のチャルメラが演奏できるんですね。

ちなみに、アヴェ・マリアという曲を以下から聴けるようにしました。グノー作とは違います。たしか今、何たらザドッグという映画の1シーンで流れている曲だと思います。間違いがあったらご指摘お願いしますネ♪そして、例によって腕前は置いといて・・・。

アルトリコーダーで吹く・・・”アヴェ・マリア”

拡張子を”mp5”にしているので、治してください(スマセン……)。

楽器のススメ:第三回 "フルート"
【公開日】:05/7/5 【著者】:OIDUS・DAVID・DEKURON

【第三回】:オーケストラの華・・・フルートの響き！

皆さん、こんにちは。”楽器のススメ”の第三回です！

さてさて。今回は、オーケストラの華”フルート”を紹介します。僕が一番好きな楽器です♪フルートの音色は多様多彩・・・尺八風に吹いたりなんかも出来ちゃいます。いくつもの顔を持つフルートだからこそ、いわゆる”美しい”とか、”澄んだ”音を出すために、たくさんの方が練習に練習を重ね、よい響きを習得していく。

中学や高校の部活でも、吹奏楽やオーケストラ部などは夏のコンクールなどに出場し、悲喜交々のドラマを繰り広げます。まさにそれは青春の響き。汗と涙をぐっとこらえ、自分達の演奏をするというのは、まさに芸術と呼べましょう。

ところで、堅苦しいお話はこれくらいにして、まずはフルートの特徴。

フルートは、日本古来の雅楽に使われる”篠笛”と同じく、”横笛”というカテゴリーに分類されます。横笛はオーケストラなどでも珍しく、サクソでおなじみの”リード”というものを使わない楽器なので、息のコントロールがそのまま音に直結するわけですし、だからこそ、いろんな音色が奏でられるわけです。

で、フルートは非常に発達した楽器です。楽器と言うのは、音を出すために管に穴を開けているわけですが、穴を指の数だけ開けただけでは、指使いがムツカシクなってしまいます。そこで、ベームさんという偉大な方が、フルートを改良してくれました。その結果、音が高くなるごとに指使いもそれに連動して右から順に離せば良い構造になり、速い曲も容易に演奏できるようになったのです。

その結果、高音域を受け持つ楽器であるため、速い曲などではフルートが重要になってきます。音の出しやすい楽器ですので、速い曲になっても音がついていけるので、古くからいろいろな作曲家達がフルートを重要なポジションに置いた曲を沢山作ってきたわけです。

さてさて、まずは音階を聴いてみましょう♪

[フルート音階・・・ソラシドレミファ#ソ](#)
拡張子を”mp5”にしているので、治してください(スマセン・・・)。

おしまい。